

岩手医科大学歯学会第 84 回例会抄録

日時：平成 30 年 2 月 22 日（木）午後 5 時 30 分

会場：岩手医科大学歯学部第四講義室（C 棟 6 階）

特別講演

睡眠時無呼吸症候群に対する歯科的アプローチ

Dental approach to sleep apnea syndrome

○佐藤 和朗

岩手医科大学歯学部口腔保健育成学講座
歯科矯正学分野

矯正歯科／いびき・歯ぎしり外来

睡眠時の気道閉塞が原因とされる閉塞型睡眠時無呼吸症候群（OSAS）は成人の約 3% が罹患しているといわれており、その治療法のひとつとして歯科では下顎を前方に誘導し、気道の開大を促す下顎前方誘導装置を適用することがある。OSAS 患者では肥満症や循環器系疾患との関わりが指摘されているが¹、都道府県別の成人肥満者の割合が高い県が東北地方に集中している事や、小児においても東北地方の肥満者頻度が高い事は、今後の患者の実態数や患者予備軍の推定に重要な項目になると考えられる。一方、歯科的な見地からは下顎後退の顎態を有する患者が多いことが特徴である。

岩手医科大学附属病院歯科医療センターでは平成 14 年から特殊外来として「いびき・歯ぎしり外来」を設立し、平成 16 年に睡眠時無呼吸症候群患者に対する歯科での口腔内装置治療が保険診療に導入されてから、10 年以上が経過した。現在では矯正歯科といびき・歯ぎしり外来を併設し、睡眠医療科を中心とした医科との協力体制のもと診療と臨床的研究を継続している。

「いびき・歯ぎしり外来」における、この 10 年間の変遷では、OSAS 患者の連携治療だけではなく、開発研究も手がけたことが特記される。2011 年の東日本大震災によって甚大な被害を被った岩手県沿岸部で、長期間にわたる停

電から経鼻持続陽圧呼吸（nCPAP）を中断した患者が多数認められたことから、充電式の nCPAP を開発する研究を睡眠医療科と共同研究で進めてきた。

また最近では、重度肥満症患者に対して選択される、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術（Laparoscopic sleeve gastrectomy：LSG）を施行される患者の顎顔面および咽頭形態の解析やフォローアップ診療においても、外科学講座や糖尿病・代謝内科分野との協働連携と、裾野が広がってきている。

循環器系疾患を中心とした多くの疾患との関連を指摘されている OSAS の治療や研究において、歯科の果たす役割を今後も担っていくことで、地域医療の質の向上に寄与して行ければと考えている。

一般演題

1. 臼歯部に 5 本の過剰歯を有する一例

A case with five supernumerary teeth at the molar portion

○千 智博, 桜井 直人, 泉谷 祥,
金子 千洋, 久家 彰宏, 今野 公貴,
佐藤 柊果, 須貝優璃亜, 千 瑞将*,
藤原 尚樹**, 安藤 禎紀**, 佐々木信英**,
藤村 朗**

岩手医科大学歯学部 3 年, 青森県三沢市
開業*, 岩手医科大学解剖学講座機能形態学
学分野**

目的：上顎左側第三大臼歯の疼痛を主訴に来院した患者の口腔内に上下顎左右に小白歯様過剰歯 5 本を有する一例に遭遇したので、その詳細を報告する。

症例：本症例は年齢 26 歳、男性で上顎左側第